



コロナで
死亡した人の
共通点は、

コロナに感染する人と、
しない人の違いは何なのか。
重症化・死亡する人と
回復する人の違いは何か。
その答えは「免疫力」にあった。

免疫力の低下



死亡率は低いのに なぜコロナは怖いのか

2020年5月25日、全国で緊急事態宣言が解除され、一時は日本で新型コロナウイルス感染症流行の第1波が収まりかけた。だが、一部地域では再び感染者が増えるなど、まだまだ気が抜けない。世間を大きく混乱させた新型コロナウイルスとは、いったいどんなウイルスなのか。季節性インフルエンザと何が違うのか。感染症専門医であるKARADA内科クリニックの佐藤昭裕院長は次のように語る。

「新型コロナウイルスと大きく違う点の一つに、『肺炎になりやすい』ということが挙げられます。インフルエンザによる肺炎は、高齢者など



佐藤昭裕
Sato Akihito
KARADA内科クリニック院長。医学博士。日本感染症学会専門医。日本内科学会認定医。前東京医科大学病院感染制御部副部長、感染症科医局長。



コロナから生還した人

も死亡率も低いというデータが出てくるが、1歳未満の乳児は逆に死亡率が上がるのだそう。

新型コロナウイルスによる肺炎で亡くなったコメディアン志村けんさんは、ヘビースモーカーだったといわれている。そのことは、やはり死亡したことと関連性があるのだろうか。

「喫煙者は、何も診断されていなくても、CTを撮ると肺気腫や慢性閉塞性肺疾患（COPD）など何かしらの肺の病気が多いことが多くあります。志村さんの場合も、もしかしたら肺に基礎疾患があった可能性がありますね」

女優の岡江久美子さんも、新型コロナウイルスによる肺炎で亡くなった。岡江さんは2019年12月に乳がんが見つかり、2020年1月末から2月中旬にかけて放射線治療を行っていた。

「岡江さんがなぜ亡くなったのかという根拠は少し難しく、リリースされている情報だけではわかりませんが、がん治療を受けていたこと、放射線治療を受けていたこと、そして28歳という若さで亡くなったこと、勝武士さんは、『重症化因子』の中の『肥満』や『糖尿病』に該当している。肥満の人はさまざまな生活習慣病を合併しているため、重症化のリスクが高かった。

重症者や死亡者がいる一方で、感染しても軽症や無症状で済んでいる人もいます。その違いを佐藤院長は次のように話す。

「詳しいことはまだよくわかっていないのですが、人種差は関係ありそうだと思います。死亡率は黒人が一番高く、次いで白人、黄色人種となっています。ニューヨークでの比較なので、

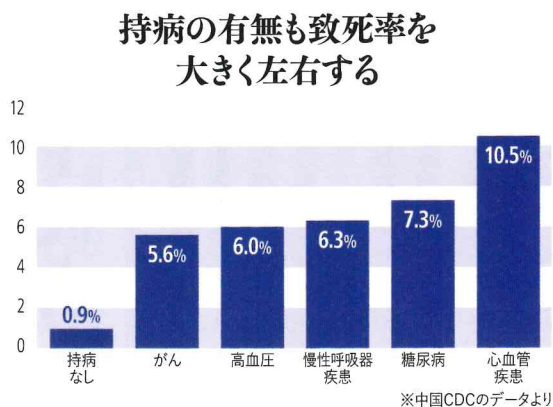
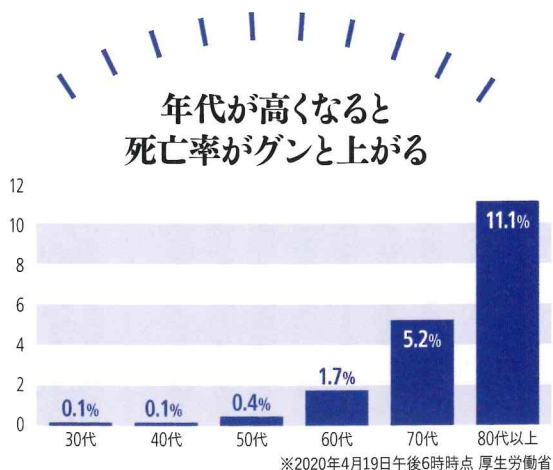
限られた人のみにかかるのに対し、新型コロナウイルスによる肺炎は比較的若い人にも起こっています。死亡率に関してはインフルエンザや他の感染症と同じで、年齢が高いほど上がっていくという結果が出ています。新型コロナウイルスの死亡率は、60代以下だと2%以下ですが、80代以上だと11%ぐらいになります。これは、すでに存在している細菌性肺炎と同じくらいの死亡率です。ただ、新型コロナウイルスは治療薬もワクチンもないので、かかってしまうと手の打ちようがないというのが他の感染症と違うところですね」

肺炎には大きく分けると細菌性とウイルス性の2種類があり、細菌性は抗生物質、ウイルス性は数は少ないが抗ウイルス薬で治療できる。インフルエンザは抗インフルエンザ薬を投与すれば良くなるが、新型コロナウイルスは特効薬がまだ開発されていない未知のウイルスのため恐れられているのだ。

そんな新型コロナウイルスの感染者には、軽症で済んだ人もいれば重症化したり死亡したりした人もいます。何がその違いを生むのか。

「4月24日に出た『The New England Journal of Medicine』という有名な医学雑誌で、新型コロナウイルスで重症化しやすい人の特徴（重症化因子）が発表されています。高齢（65歳以上）、肺疾患、心臓疾患、糖尿病、肥満、免疫不全（HIV患者、ステロイドや免疫抑制剤使用者、骨髄や臓器の移植をした人を含む）、腎疾患、肝疾患、喫煙などです」

また、子どもは新型コロナウイルスの感染率



亡くなった志村けんさんは、ヘビースモーカーだったといわれている。

コロナ第2波は、第1波より厳しいものになる可能性がある

国による医療水準の差はあまり関係ありません。もつとも、社会的(経済的)階層や生活様式の違い、医療へのアクセスビリティの差はあるので、それが関与している可能性はありますが、また、BCGワクチンの予防接種が関係しているという説もありますが、はっきりしたことはわかりません。日本国内でも、どのような人が重症化するかわかってきています。ですが、軽症者がなぜ軽症で済んでいるかはわかっていません」

さて、新型コロナにかかると、どんな症状が出るのか。芸能人の例を見ていこう。

新型コロナから生還した俳優の石田純一さんは、報道によると、20年4月10日に仕事で沖縄へ行き、11日に体がだるく感じた。13日に東京へ戻るまでホテルで休息したが、その間発熱や咳の症状はなかったという。しかし、14日に病院で診察を受けたところ肺炎の傾向が見られたため入院。PCR検査の結果、15日に陽性と確認された。その後「アビガン」を投与され、4日ほどで平熱に戻ったそうだ。



命の危機を感じた石田さんはアビガン投与後平熱に。

当医師からは「肺の状態が悪く、もしかしたらもうダメなんじゃないか」と思った」と言われたそうだ。誰しもが重症化し、最悪の場合死に至る可能性があるのだ。

また、グラビアアイドルのソラ豆琴美さんは、医師から「軽度の感染者」と診断されたにもかかわらず、その闘病生活は過酷なものだった。

「私は軽度の感染者ですがとにかく苦しいです。悪化するとともに食事もできず、起き上がることもやると、息を吸うのもやつとでずつと微熱だったのが最終的に39度までなりました。咳も止まらず痰がひたすら出てきて息が止まって飛び起きます。ずつと胸が苦



コロナから生還した人

しい状態。味も匂いもずつとしません」(witherより)

同じく生還者であるフリーアナウンサーの赤江珠緒さんの場合は、連日37.5度くらいの熱がダラダラと続いたという。本人が出演するラジオ番組のホームページで次のようにコメントしている。

「たとえ37度5分くらいの熱でも、10日も続けば、うんざりしてきます。その点が、『軽症』とはいえず、今までの風邪などとは違う感じがしました。そして、この病の特異な点は、何といつても孤立、隔離を強いられる点です。

普通の病ならば、家族や友人に、看病をお願いすることもできます。私のように、子供のいる方なら尚更、その存在がありがたいでしょう。

ただ、このコロナウイルスの場合は全く打つ手がありませんでした。玄関まで支度物資を届けてくれる友人の厚意や、宅配の方々の努力によってのみ、生活を維持できる状況です。解熱剤で何とか症状を緩和しつつも、子供がいと昼間に眠ることなどは不可能なので、それは正直、結構きつ状況でした」

同じく新型コロナから生還した宮藤官九郎さんも警鐘を鳴らす。

サイトカインストームとは何か

日本では死亡率が低いとはいえ、人によってはかなりひどいそうだ。しかし、新型コロナは特効薬がない以上、自分の免疫力が身を守るうえで重要になってきそう。『免疫力を下げない』ということは可能なのか。

「一口に免疫といっても評価基準はたくさんあり、例えば皮膚も細菌やウイルスの侵入を防ぐという意味で免疫です。そのため、アトピーなどで肌が荒れると免疫力が下がっているといえますが、皮膚をきれいにしたからといって免疫力が上がるといえることはありません。また、血液の中の白血球にある好中球の数も免疫と関係していますが、数が少なくなると感染症にかかりやす

肥満、高齢者、喫煙者は重症化リスクが高い!

新型コロナウイルスの重症化因子

65歳以上
糖尿病
肥満
免疫不全
(HIV患者、ステロイド使用者、免疫抑制剤の長期使用者を含む)
骨髄や臓器の移植をした人
喫煙
腎疾患・肺疾患・心臓疾患を持っている人

※佐藤医師への取材より編集部作成



コロナに罹患した勝武士さん(右)は28歳という若さで亡くなった。

くなることはわかっていても、数が多くなれば感染症にかかりにくくなるというわけではないのです」(佐藤院長、以下同)

そんな中、新型コロナの重症化に関する話で、最近わかってきたこともあって、「新型コロナによる死亡者は肺炎が原因で亡くなったという印象があります。実はほかにも2パターンほど原因があるのではないかとされています。一つは免疫系が暴走して抗体が過剰に作られることにより(サイトカインストーム)、臓器不全に陥って亡くなるパターンです。関節リウマチに使われるアクテムラという薬が、このサイトカインストームを抑えるのではないかとされています。

もう一つは、肺の血管が血栓で詰まることによって亡くなるのではないかとされています。重症化してから

早期に亡くなってしまおう方がこれに当てはまるとされています。血栓ができやすいかどうかは、あらかじめ採血して検査すると判明します。血栓ができやすい体質だということがわかったら、血をさらさらにする薬を出すことで対処しています」

肺炎以外の死亡原因と対処法が研究されてきたことで、今後は重症者や死亡者も減っていくかもしれない。

さて、日本では新型コロナの流行はいったん収束の様相を見せて、段階的に経済活動が再開されているが、第2波、第3波への対策が必要になる。20年4月30日のCNNの報道によると、米国立アレルギー・感染症研究所のアンソニー・ファウチ所長は、新型コロナウイルスの「第2波」が年内に起きる可能性について、「個人的にはほぼ確信している」との考えを示している。

佐藤院長も、「緊急事態宣言発動時



コロナから生還した人

のような自粛ムードを一斉に解除すると、たった2週間で元の状態に戻ってしまう、というシミュレーション結果も出ています。再流行は簡単に起こると考えていいでしょう」と言う。

私も医師として日々患者さんに接している中で、人よりこまめに手を洗うようにしています。診察室の机の上にも自動で出てくるアルコールの手指衛生剤があるので、これを一回の診察で2回くらい使っています。これから暑くなると、マスクを下げたまま顔の汗を拭いたりなどして顔に触る機会が増えると思うので、より一層手洗いは大切になります」

また、これを機に痩せることやタバコをやめることも重症化リスクを下げるといえる。19/20シーズンには新型コロナの予防に努める人が多かったためか、インフルエンザの感染者数が例年より少なかった。あらゆる感染症を予防するために、手洗いは新しい生活習慣にしたほうがいだろう。

長生きしたければ病院に行くな

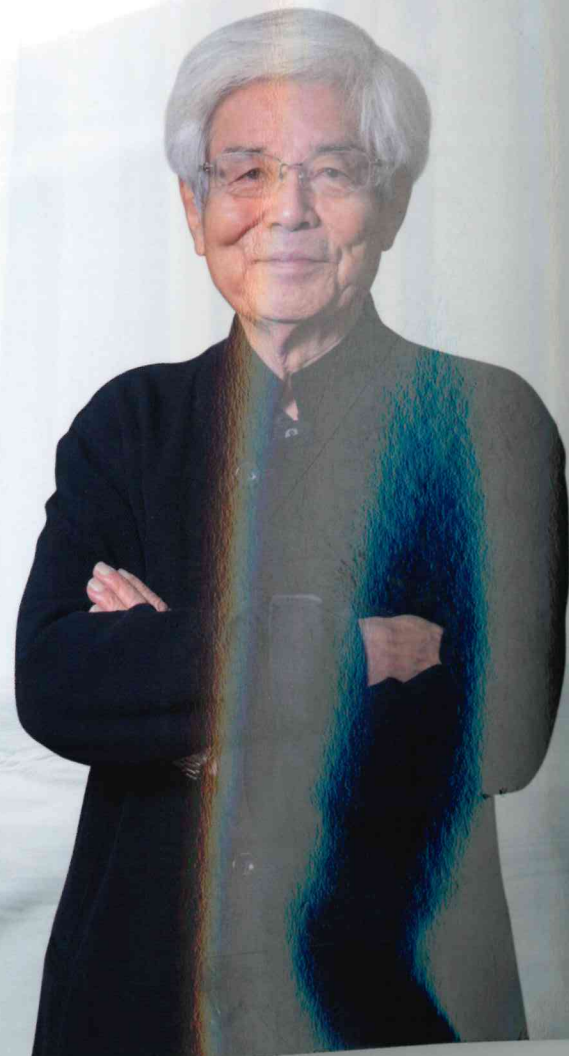
医者に殺されない 20の心得

医者にもクスリにも頼らない
人生100年時代の知恵

自分が「健康」だと思っている人は
アメリカ人の9割、日本人は3割

病院に行かなくなった高齢者は、
元気になった!

免疫力アップに、
医者・クスリ・サプリは要らない!



PRESIDENT MOOK

コロナに負けず、
インフルエンザにも負けず、
がんにも、心筋梗塞にも
脳卒中にも負けぬ
丈夫な身体を持つために、
病院に頼らず、クスリに頼らない
生活を身につけましょう。

この本を読めば、
心身ともに健康を保つ
生活の「知恵」が得られます。

プレジデント社

価格930円(本体845円+税)

雑誌コード 67362-87

Printed in Japan 印刷:株式会社ダイヤモンド・グラフィック社

ISBN978-4-8334-7938-7

C9434 ¥845E



9784833479387



1929434008453